



月根尾

「月根尾」とは、学校のある地域の古名

「突根尾原」に由来する地名です

6月

295号

ゴールの先を「そうぞう」する

～県総体を振り返って～

教頭 武藤 立樹

みなさん県総体お疲れ様でした。私はテニスの会場に応援に行ったのですが、飯南高校の生徒は、選手はもちろん応援も含めて直向きで、熱いものを感じました。その成果は県総体Bグループ9年連続敢闘賞受賞という成果にも現れていると思います。

そんな県総体は終わりました。皆さんの胸中には、今どのような思いが去来していますか。「満足できた」「持てる力をだしきった」という人もいれば、「悔いが残った」「思い描いた戦いができなかった」という人もいると思います。

体育系の部活動にとって区切りとなる県総体が終わったこの時期、文化系の部活動も含め何のために部活動に取り組むのかということについて私の想いを綴りたいと思います。

少し堅苦しい話になりますが、部活動とは学習指導要領（高校で学ぶべきことを定めた法律のようなもの）において教育課程の外に位置付けられています。したがって高校生活において部活動は加入しても、しなくてもかまいません。もちろん部活動について成績評価はなく、卒業単位にも含まれません。つまり部活動とは、みなさんの自主的な意思による活動であります。

しかし、みなさんの自主的な意思による活動であるにも関わらず、飯南高校では1年生から3年生まで191名（ラボでの活動人数を含む）が何らかの部活動に入って活動しています。飯南高校全校生徒は160名ですから、ほぼ全員が部活動に加入している、また多くの人が複数の部活動にまたがって活動しているという現状があります。

ここまでみなさんを惹きつける部活動の魅力とは何でしょうか。大会やコンクールで上位に入ることが魅力なのでしょう。

確かに体育系文化系を問わず上位に入ということは部活動を行う上で、大きな目標であります。私も高校で部活動に励んでいた時に、また教員としていろいろな部の顧問をしていた時に「目指せ、インターハイ!」といった目標を掲げ、部活動に取り組みました。

昔話になりますが、私は高校時代に剣道部に所属しておりました。戦績は高校2年生の時、県新人戦個人戦でベスト8に入ったのが最高でした。部活動の顧問としてはある高校でボート部の顧問をしていた時に、全国選抜大会（当時ボートの全国選抜大会は中国ブロック大会で3位までに入賞すれば出場できました）で13位に入賞したのが最高の戦績です。

つまり私は、選手としても顧問としても優勝を経験したわけではなく、むしろ敗北を経験した数の方が圧倒的に多いです。では、優勝することができなかった私が、選手としてあるいは顧問として部活動に取り組んだ月日は無駄だったのかと考えた時、私は無駄ではなかったと思っております。負けはしましたが、部活動を通じて勝利よりも大切なものを得ました。

話は戻りますが、私がボート部顧問をしていた時の話をさせてください。その時の部員たちはとても優秀で、全国優勝を狙うことができるレベルにありました。ですから私は「全国制覇」を部の目標にしようとしたのですが、部員の意見は違いました。部員たちは私に言ったのです。「先生、私たちは、勝ち負けはどうでもいいです。1日でも長く、1レースでも多く、このメンバーと共にボートを漕ぎたい。それだけです。」

私は部員たちのこの言葉に部活動の魅力とは何か教えられました。ボート競技のレースは1000Mの距離で競います。だから、私は1000M先にあるゴールを見ていました。しかし、部員たちはゴールの先を見ていました。

こうした部員の想いは試合の結果にも現れました。前述の通り、私が顧問をしていた年の3月に開催された全国選抜大会では第13位であったのですが、（私はその年の4月に他校に異動となりました。）8月に開催されたインターハイで準優勝し、さらにその時の3年生部員6人は全員現役で志望する大学に合格し、卒業しました。そして、その時のキャプテンがこの7月に結婚することになったのですが、その結婚式には私を含め当時のチームメイト全員が招待され、また嬉しいことに全員が出席する予定です。こうした経験から、私は部活動を含め高校生活とは勝利や合格のためだけのものではない。もっと大切なものを得るための、かけがえない時間であると確信しております。

改めて、みなさん県総体お疲れ様でした。県総体で引退した3年生、部の伝統を受け継ぐ1・2年生、そしてこれから大会やコンクールを迎える部のみなさん、ぜひゴールの先を「そうぞう」してみてください。そして、授業においては黒板の向こうを「そうぞう」してみてください。そうすれば、みなさんがなぜ飯南高校で高校生活を送るのかという問いに対する答えが自ずと見えてくると思います。そして、その答えを「そうぞう」する過程で、毎日飯南高校で高校生活を送ることができるという当たり前が、実は当たり前でないことに気づくと思います。

かけがえない高校生活が、より一層輝くものとなるよう仲間と共に部活動に打ち込みながら、飯南高校での新たな時間を「そうぞう」していきましょう。

第64回島根県高等学校総合体育大会 結果

Bグループ(中小規模校)参加校数
男子24校・女子24校

9年連続 **敢闘賞受賞!**

冬季に行われた
スキー部の総体
結果も加算され
ています。

テニス部 6/4-6

【女子団体】
1回戦 飯南 3-0 浜田水産
2回戦 飯南 1-2 松江東 **ベスト8**
【女子シングルス】7名出場
吉川愛和・中山和香・原菜月
3名が2回戦進出
【女子ダブルス】3ペア出場
吉川愛和・原菜月ペア 準決勝進出 **ベスト4**



バレーボール部 5/29-31

【1回戦】飯南 1-2 開星



卓球部 6/4-6

【男子学校対抗】
1回戦 飯南 0-3 遼摩
【女子学校対抗】
1回戦 飯南 3-2 松江北
2回戦 飯南 0-3 松徳学院 **ベスト8**
【男子シングルス】7名出場
【女子シングルス】4名出場
倉橋瑞季・明見菜々子・三上麗・安田紗里奈
4名が2回戦進出
【男子ダブルス】3ペア出場
【女子ダブルス】2ペア出場



今大会の優秀な選手として、
吾郷優真さんが
ベストセブン賞を
受賞しました!



ハンドボール部 6/5-6

【1回戦】飯南 30-22 松江工業
【準決勝】飯南 19-32 松江南
【3位決定戦】飯南 34-23 松江東 **3位**



その他 部活動報告

ハンドボール部 5/9-10

第77回中国高等学校ハンドボール選手権大会
【1回戦】飯南 21-35 徳山商工(山口1位)



生命地域ラボ：美術クラブ 5/28-30

高文連出雲地区美術講習会およびコンクール
出雲地区の高校美術部員が2泊3日の合宿形式で集う講習会に、本校の美術クラブ5名が参加しました。「三瓶青少年交流の家」付近の豊かな自然の中で、主に油絵の野外制作に集中して取り組みました。初日の講義や、最終日の入選作品を対象とした講評も参考になり、今後の制作への大きな励みとなる、学びの多い3日間となりました。また、他校の生徒との交流や作品からも大きな刺激を受けました。

【入選作品】として、本校からは村上楓香さんの作品が選ばれました。



野球部 6/5-7

島根県出雲地区高等学校野球大会
【1回戦】飯南 4-3 出雲商業
【2回戦】飯南 5-4 平田
【準決勝】飯南 5-13 大社 **ベスト4**



吹奏楽部 6/6

中部地区吹奏楽祭
飯南町3校合同(頓原中学校・赤来中学校・飯南高校)の吹奏楽部で出演しました。飯南町のマスコットキャラクターのテーマソング「い〜にゃんの歌」、「じょいふる」の2曲を合同演奏しました。演奏を聴きに來てくださった皆様、ありがとうございました!



飯南高校 オープンハイスクール

【時間】9:00~
終了時間は希望するコースによって異なります。

【内容】
●生命地域学体験
●高校生との交流
●部活動見学、寮見学 など



◀ コチラのQRコードからお申し込みください。
詳しくは飯南高校ホームページをご覧ください。

第2回 オープンハイスクールは
10/24 土



2027年度の学校案内ができました!
飯南高校ホームページからご覧になれます。

第62回島根県高校放送コンテスト 兼 第73回NHK杯全国高校放送コンテスト島根県大会

【アナウンス部門】5名出場

「地域に愛されるいいなん高校情報箱」熊本葵 **優秀賞**

【朗読部門】6名出場

【テレビドキュメント部門】2作品出品

「至高（四幸）の活弁 全てがその日だけのステージ」

森山智貴・澤田煌明・三上護 **最優秀賞**

【ラジオドキュメント部門】1作品出品

【創作テレビドラマ部門】1作品出品

【創作ラジオドラマ部門】1作品出品

➡ この結果、**2年ぶりにNHK杯全国高校放送コンテストへの出場が決定!**アナウンス部門・テレビドキュメント部門の2部門で、
7月21日～24日に東京で開催される全国大会に挑みます。

JRC部

(青少年赤十字)

JRC部は今年度も様々な活動を行っています。
学校ホームページをぜひご覧ください!

これまでの活動が認められ、

※ **「高校生ボランティア・アワード2026」への出場が決定!**8月4日～5日に東京で開催される全国大会で、
ポスターセッション形式で来場者の皆さんに発表をします。◀ 飯南高校JRC部の、
「飯南高校発! ウェルビーイングないいなん暮らし」
ポスターはコチラから

※地道なボランティアに取り組む高校生を顕彰し、活動の継続を応援する場です。全国から集まる高校生同士が交流し、互いに切磋琢磨することで新たな連携を生み出すとともに、高校生の素晴らしい挑戦を広く社会へ発信することを目的に開催されています。

7月の主な行事予定



2日(木) SC来校(PM:飛田先生)

6日(月) 壮行式(野球部・報道部・JRC部)
球技大会

9日(木) SC来校(PM:菅先生)

15日(水) 放課後家庭学習日



15日(水) 生徒面談週間(～23日)

SC来校(AM:菅先生)

22日(水) SC来校(AM:菅先生)

23日(木) 終業式

生命地域学軌跡探究プレゼン(3-2)

24日(金) 保護者面談(～29日)

